

## やさしさのリレー

山形県 北部小学校 4年 島扇 海生

「海生、だいじょうぶ！」

「海生、がんばれ！」

わたしのまわりには、いつもはげましの声があります。

わたしは、3年生のころからダイビングをしています。ダイビングは、高い飛びこみ台の上から、えんぎをしながらプールに飛びこむきょうぎです。失敗すると体を強く打ちつけて、いたいでこわいけれど、うまくできると気持ちがいいので毎日練習をつづけています。

ダイビングクラブでは、小学3年生から大学生までいっしょに練習をしています。はじめのころは、はずかしくて大きい人たちとはしゃべれませんでした。が、いっしょに練習をがんばっているうちにしゃべれるようになりました。

練習中には、いろいろなことがありました。

市えいプールでの大会の前日、わたしは次の日に飛ぶ種目がこわくて、なかなか飛べませんでした。そのとき、高校生のれんさんが、自分の時間をさいてコーチをしてくれました。れんさんがついていてくれたおかげで、最後には飛べるようになり、大会ではいい点がとれました。うれしかったです。

べつの大会のときは、練習中に後ろ飛びこみに失敗して、飛び板に頭の方から落ちました。一しゅん、何がおきたかわかりませんでした。そのまま水に落ちてしまったところを、中学生の詩音さんがすぐに飛びこんで、引き上げてくれました。水から上がったら急にいたみがわいてきて、わんわん泣いてしまいました。

詩音さんは、

「大じょうぶ？」

と声をかけて、いすにすわらせてくれました。体はとってもいたかったけれど、詩音さんの声を聞いて、なんだか安心しました。

後から二人にそれぞれおれいを言ったら、二人とも同じことを言いました。

「わたしも、先ばいにしてもらってきたから。」

れんさんのやさしさも、詩音さんのやさしさも、先ばいからずとつながっているんだなと感じました。きっと、みんな大きい人からしてもらったことを、小さい人にしてあげながら、やさしさをつないでいるんだなと思いました。わたしもその一員になれたんだなと思うとうれしいです。

わたしも、れんさんと詩音さんからもらったやさしさを、ずとつなげていきたいです。これから入ってくる小さい人たちの力になりたいです。

そして、リレーをする仲間を大切に、ダイビングをつづけていきたいです。